

## この言葉を胸に

私は小学生の頃、とても元気な子だった。良いことも悪いこともたくさんしてきた。そんな時に、優しく厳しく見守ってくれたのが小学校2年生のときの担任のU先生だった。特に、私自身を支えてくれたのが小学校2年生の頃だった。私は元気があるが故、全体を仕切り、まとめるのが好きな子であった。そんな性格は、良くもあれば悪くもあるということだった。その性格が悪い方に生かされてしまい、私は友だちとトラブルを起こした。自分は遊び半分でやっていた行動が、相手を大いに傷つけていたのだ。それを指導してくれたのがU先生だった。

先生は私に聞いた。「OOちゃんについて、何か心当たることはない？」と。今思うと、悪気があってしたのか、分からずにしてしまったのかを確かめたかったのだろう。そして先生は、怒鳴るのではなく、私を諭すように、しっかりとゆっくりと教えてくれた。その時言ってくれた言葉を私は今も忘れずに実行している。それは、「自分がされたら嫌でしょ。」という言葉だ。幼稚な言葉に思うかもしれないが、当時の私の心には、すんなりと赤子を抱く母親の子守歌のように入ってきた。この言葉は、大人になって社会に出て、上の立場になった時などにも大切になってくると思う。

現在、私はクラスの書記をしている。学級委員長、副委員長と共にクラスに指示を出す時、私はどのようにすればクラスがまとまるかを常に考え、言葉を選んで指示している。あの時の、ただ仕切りたいという私から、目的をもってまとめようと思い始めたのは「自分がされたら嫌でしょ。」という言葉があるからだ。

U先生には、私の性格を良い方に伸ばしてもらい、本当に感謝している。これからも、第一に人の気持ちを考えられる人でいられるよう、この言葉を胸に頑張っていきたい。

三樹 茉凜  
(中学生)